

経営情報学会 2014 年秋季全国研究発表大会

大会実行委員会：小林満男，佐々木桐子，内田 亨，大野富彦

2014 年秋の全国大会は，10 月 25 日～26 日の 2 日間にわたり，新潟国際情報大学新潟中央キャンパスを会場として開催された。新潟中央キャンパスは，JR 新潟駅からバスで 5 分，信濃川にかかる萬代橋を歩いてきても 20 分程度で到着する新潟市のビジネスセンター（古町）に隣接した場所にある。両日とも晴天に恵まれ，まさに学会日和の中，活発な研究発表，議論が行われた。

研究発表大会は，「再考—社会インフラとしての情報システム@柳都，新潟」というテーマで開催された。情報システムは，私たちの暮らしや企業活動に必要な電気，ガス，水道，電話，道路，橋梁，港湾などの施設，学校，病院などの社会インフラを支える役割を果たしているが，しかしながら利用者からは情報システムが私たちの生活や企業活動にいかにか貢献しているのか，その実態はますます見えにくくなっている。そこで今大会では，社会インフラにおける情報と情報システムの利活用の現状と将来像について，水の都，柳都（りゅうと）と呼ばれる新潟の地で，議論することとなった。

1. 学生ポスターセッション

学生ポスターセッションは初日の 8:30 から開始され，16 件の発表があった。午後の開会式において，3 名の学生に学生優秀発表賞が授与された。



2. 基調講演

先の東日本大震災では，コンビニエンス・ストアが社会生活になくはならない存在であることが改めて認識された。そこで基調講演では，コンビニ業界で常にトップ企業であり続けているセブン・イレブンにおいて業務改革と情報システムの導入を推進されてこられた（株）オピニオン代表取締役社長であり京都大学大学院技術経営特別教授の碓井 誠様にご登壇いただき，「流通・小売業の変化対応と事業インフラ革新」というテーマについてご講演いただいた。

世の中の変化とサービス化の進展を「売り手社会，買い手社会，価値共創社会」の三つのステージでとらえ，セブン・イレブンの多次にわたる情報システムの再構築を経営課題，システム・ソリューション，IT・技術開発の面から説明された。

その一連の取組みには，数多くのオリジナル開発や本邦初の導入などが含まれ，まさに「トップ企業は一日にて成らず」であることを実感させられた次第である。



3. 特別講演

特別講演は，地元新潟において地質，土木技術者として（株）キタックを創業された中山輝也社長が

ら、「技術者として起業して」というテーマで、起業・経営から幅広い社会活動を踏まえ、大学や産業界で活躍する若手研究者、実務家へのメッセージをお話ししていただいた。これまで取組んでこられた“自らのProjectXはまだ終わらない！”という意気込みには大いに勇気づけられた方も多かったのではなかろうか。



なお地域社会に開かれた学会をめざしている本学会の主旨を踏まえ、今大会では基調講演、特別講演とも地域の皆様に公開とさせていただいた。

4. 懇親会

懇親会は大会会場から徒歩1分のレストランのメインフロアを貸し切って行われた。佐々木桐子実行委員長の開会の挨拶、平野雅章会長の挨拶、内田亨プログラム委員長の乾杯の音頭があり、歓談の後、次回開催校である日本大学生産工学部の柴直樹委員から挨拶があった。

『新潟の旬の食材・料理』と『新潟の日本酒』が功を奏したのか75名の参加者があり、経営情報学や日頃の関心事項などについて活発な議論、情報交換が交わされ盛大な懇親会となった。会場や準備の都合上、当日懇親会参加を希望され、参加できなかった皆様にはお詫び申し上げます。

5. 展示・デモ

今大会のテーマの性格から、とかく「見えづらい社会インフラにおける情報システムの活用」の事例をぜひ会場で展示、デモをお願いしたいということで、新潟市水道局様に相談した。その結果、水道事

業においては今後老朽水道管の更新、撤去等が問題となってくることから、それを支える「水道管路情報システム」を取り上げ、基調講演と特別講演の前後に水道局職員から展示、デモを承諾していただいた。さらに大会参加者には、おいしいと評判の新潟の水道水をバックしたペットボトル、「柳都物語」がもれなくプレゼントされた。

大会受付席の近くに2社の展示ブースが設置され、休み時間には多くの参加者が立ち寄っていた。

また、特別講演の後にはアンケート集計ツールを使った簡単な実演が行われた。ICTの教育現場での利用が急速に進んでいるが、参考にしていただければありがたい。

6. 一般発表

今大会は、一般セッション51件、研究部会セッションは4研究部会、1チュートリアルおよび学生ポスターセッション16件と準備した会場（A～H）をフル稼働して行われた。初日の一般セッションが開始された10:00には参加者は100名を超える出足となり、参加者の意識の高さが感じられた。



大会参加者数は、参加費をいただいた168名に聴講者等を加えると187名にのぼった。会場によってはセッションの後も議論が続き、また立見席もできるなど、成功裏に大会を終了できた。

大会開催にあたり、平野雅章会長、担当理事、快く引き受けていただいた座長の皆様、新潟市水道局職員、学会ヘルプデスクをはじめすべての関係者に御礼を申し上げます。